令和５年度　**学　校　評　価　【　報　告　】**　　加賀市立東谷口小学校

学校教育ビジョン

学校教育目標　「これからの時代を生き抜く，たくましい東谷口っ子の育成」

めざす学校像　「子どもが主役の“わくわく”と“やさしさ”にあふれる学校」
・児童も教師も活力みなぎる学校
・笑顔と思いやりの言葉であふれる学校
・保護者や地域から信頼される安心安全の学校

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	判定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	条件や内容に気をつけながら記述する	条件や内容を意識して文章が書けるよう，授業やパワーアップタイムで継続的に取り組む。	教務（研・学）	授業や学力テストなどから，字数や資料の活用など，条件がある中で記述することが苦手な児童が見られる。	【成果指標】 条件や内容に気をつけながら記述できた児童の割合が何%か。	児童の肯定的評価が A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	児童アンケート（7・12月）	B	B	12月の児童アンケートは，85%が肯定的な評価だった。大部分の児童は意識して取り組めてはいるが，まだまだ条件や内容に気をつけながら記述できていない場面も見られるので，推敲シートを今後もいろいろな場面で活用しながら，自分の記述を見直す機会を多く設定していく。
	個の確かな力につながる学び方の工夫	児童が主体的に課題解決に向かい，個の確かな力がつくような授業づくりを共通実践する。	研究（研・学）	児童が「何のために」「どのように」学習を進めるのかを主体的に考え，児童が必然性のある学び合いとなるような工夫が必要である。	【努力指標】 共通した取り組みを行い，児童の主体的な学びを意識して授業づくりを行っているか。	教員の肯定的評価が A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	教員チェックシート（毎月）	A	A	全教員が児童の主体的な学びを意識した授業づくりに取り組み，学習の進め方や学び合い方を自分たちで計画できる児童が増えてきた。今後も児童がどのように学ぶかという視点から授業づくりをするとともに、自分の学びの自覚化の推進にも努めていく。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	笑顔あふれる明るい学校	すべての児童が「自分は，大切にされている」と実感できるよう生徒指導の4つの視点を意識したはたらきがけを授業づくりや行事等に意図的に組み込む。	生徒指導（生徒指導）	明るく素直でまじめに取り組む子が多い。しかし，自分に自信が持てず，受け身的に学びに取り組む姿も見られる。	【努力指標】 生徒指導の4つの視点を意図的に授業や行事等で組み込むことができたか。	教員の肯定的評価が A 90%以上　B 80% C 70%以上　D 70%未満	教員アンケート（隔月）	B	A	12月のチェックシートによる肯定的評価は，92%であった。日々の関わりの中で4つの視点を意識することができた。今後は，さらに教師のはたらきかけを工夫して，児童自らが安心・安全な授業や学級を作り上げていくという意識を高めていく。
③キャリア教育・進路指導	自分の役割や責任を果たし，学校生活の中で役立つ喜びの体得	係活動や清掃活動，委員会活動において自身の役割や責任を果たすことは学級，学校全体に役立っていることを自覚させる。学期初めの目標設定，学期末の振り返りやキャリアパスポート活用をする。	キャリア（研・学）	すべきことを真面目に取り組む児童が多いが，自分に自信がない児童も多い。係活動や清掃活動，委員会活動は，学級，学校全体に役立っているという認識が低い児童もいる。	【成果指標】 児童が，係活動や清掃活動，委員会活動において，役割や責任を果たし，学級や学校全体の中で役に立ったと感じたか。	児童の肯定的評価が A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	児童アンケート（7・12月）	A	B	肯定的評価は88%で，7月の結果と比べると9．3%減少している。少人数での活動となるので，児童は一人一人の役割も大きく，責任を持って取り組んでいる。しかし，負担と感じる場合もあるので，達成感を感じられるような手立てが必要である。
④保健管理	けが予防に対する意識の向上	健康委員会が中心となって，けがの実態や不注意によるけがをしないための約束を提示し，児童のけが予防に対する意識の向上を図る。	養教（生徒指導）	前年度よりけがによる来室者が増えている。不注意によるけがが多く，配慮の必要な児童もいるため，周りの児童の安全にも配慮することが必要である。	【成果指標】 けがをしないための約束を守り，考えて行動することができた児童の割合が何%か。	児童の肯定的評価が A 90%以上　B 80% C 70%以上　D 70%未満	児童アンケート（7月・12月）	A	B	肯定的評価は7月の92%から87%にわずかに減少したが，学校保健委員会で講師からケガ予防のストレッチを学び，健康委員会からはけがの多い種類や場所を知らせ予防を呼びかけた結果，児童の意識が高まり，休み時間のけがは減少した。今後も児童が中心になり定期的な呼びかけを継続していく。
	１校1プランの推進による運動の習慣化と体力向上	ラダーやコーディネーショントレーニング，ハンドクリップを使って握力，瞬発力，跳躍力を育てる。また，スポチャレいしかわに積極的に取り組む。	体育（生徒指導）	児童は体を動かすことに対して前向きであり，外遊びにも積極的な児童が多い。しかし，体力テストの自校の平均値は，県の平均値を下回っている種目が多い。	【成果指標】 5月と12月に握力と立ち幅跳びを計測し，5月の体力テストの記録と比べて記録が向上している児童の割合が何%か。	記録が向上した児童の割合が A 90%以上　B 80% C 70%以上　D 70%未満	記録計測（5・12月）		B	4月と比べて，記録が向上した児童の割合が81．3%であった。ハンドクリップの使い方を個別に指導したり，放送で呼びかけたりしてトレーニングを促すことで記録が伸びた児童が増加した。今後も握力や跳躍力，瞬発力を含めた体力づくりを積極的に取り組んでいく。
⑤安全管理	避難訓練の計画的な実施と児童職員の意識向上	火災・地震・不審者に対する避難訓練を通して児童の危機予測・危機回避能力の育成とともに職員の危機未然防止・対応能力の向上を図る。	教頭（総）	避難訓練等を計画的に実施し，児童の危機への対応能力を高めているが，継続して実施し，自分で考えて行動する力を伸ばしていく必要がある。	【努力指標】 教員が訓練に際し，児童の安全への意識を確認したり高めたりするよう努めたか。	児童・教員の肯定的評価が A 95%以上　B 85%以上 C 75%以上　D 75%未満	児童・教員アンケート（訓練ごと）	A	A	避難訓練（火災，地震・津波・浸水，不審者）・児童引き渡し訓練・ｼｪｲｸｱｳﾄ訓練を実施し，全教員が児童の安全への意識を確認したり高めたりするよう努め，職員による組織的な対応もできた。訓練での学びをいかして学校以外の場面（通学路や遊び場等）でも自分で命を守る行動ができるようにしていく。
⑥特別支援教育	個に応じた指導と支援	どの子も安心して学びに向かうことができるための支援の強化を図る。	特別支援（生徒指導）	毎月，児童理解の会等で支援が必要な児童の共通理解を図っているが，支援が必要な児童に対して，授業の具体的な手だてに関しては不十分である。	【努力指標】 授業づくりの際に，支援が必要な児童がめあてを達成できるような具体的な支援方法について考えているか。	教員の肯定的評価が A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	教員チェックシート（毎月）	A	A	肯定的評価は，100%であった。教科のつけたい力を明確にし，そのねらいを達成するためにワークシート・学習ツール・交流の仕方などの工夫を行った。今後は，支援の実践について教員間での情報共有を行い，児童の学びをさらに充実させていく。
⑦組織運営・業務改善	業務の効率化・平準化によるワークライフバランスの推進	多岐にわたる業務の優先順位を考え，見通しをもって早めに取りかかり，業務の効率化及び平準化を図る。	教頭（総）	全職員が定時退校日や目標退勤時刻を意識して超過勤務時間削減に取り組んでいる。しかし，職員数減による一人当たりの業務量が増加しているため，超過勤務時間は前年度より増える傾向がある。	【成果指標】 計画的・効率的な業務遂行に努めることで，毎月の時間外勤務の平均が60時間を超えなかったか。	超過勤務時間の平均が月に60時間を超えない教職員の割合が A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	勤務時間調査（7・12月）	C	B	8～12月の毎月の時間外勤務の平均が60時間を超えない教職員は80%であった。今後も業務の平準化に努めていくとともに，日課等の見直しによる業務遂行時間の確保にも努めていく。
⑧研修	学びを深めるためのICT活用	学びを深めるための効果的なICT活用について研修し，実践する。	校内研修（研・学）	ICT活用のスキルは身についてきたが，学びを深めるための活用には個人差がある。	【努力指標】 学びを深めるためのICT活用に努めたか。	教員の肯定的評価が A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	教員アンケート（7・12月）	B	B	日常的に，様々な方法で児童の表現の場としてICTを活用が定着している。しかし，考えを深めるための活用については，実践の共通理解の場が不十分であった。校内研修を行い，教員が共通実践できるように努めていく。
⑨保護者，地域との連携	開かれた学校	便りや，H.Pを活用し学校の様子を保護者に伝える。保護者アンケートや学校運営協議会により保護者や地域の声を学校運営に生かす。	教頭（総）	定期的なホームページ更新や，学校だよりの発行が定着したが，学級だよりについては担任の裁量に任せている。	【満足度指標】 保護者が，学校便りや学級便り，ホームページ等で，学校の様子がよくわかると感じているか。	保護者の肯定的評価が A 95%以上　B 85%以上 C 75%以上　D 75%未満	保護者アンケート（7・12月）	A	A	肯定的評価は97．1%であった。ホームページは行事後に随時，学校だよりは毎月更新または配付するように努めた。今後も保護者や地域に学校の様子を積極的に発信していくとともに，保護者アンケートや学校運営協議会により保護者や地域の声を学校運営に生かしていく。
⑩教育環境整備	校舎内外の安全と教育効果を高める教育環境の充実	日常的に安全点検・備品管理に努め，施設・設備・備品等の適切な整備を行う。	主事・教頭	定期的に安全点検をし，修繕したり，備品補充したりしてきた。しかし，日常的な修繕が必要な場所や修繕しきれていない箇所がある。	【成果指標】 管理場所の担当者が安全確保と環境整備に努め，常に学習・生活環境が整備されているか。	安全確保・環境整備が整っていると感じた教職員が A 90%以上　B 80%以上 C 70%以上　D 70%未満	教職員アンケート（7・12月）	B	A	定期的な安全点検による危険個所の早期発見と迅速な対応ができ，全教職員が肯定的評価であった。地域とも連携しながら，今後も全教職員で安全な学習環境作りに努めていく。